

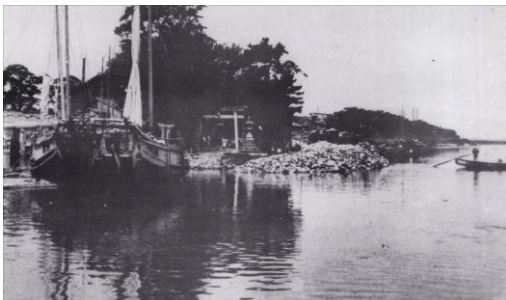
## 明治前期の岐阜と桑名湊

郷土史家 西羽 晃

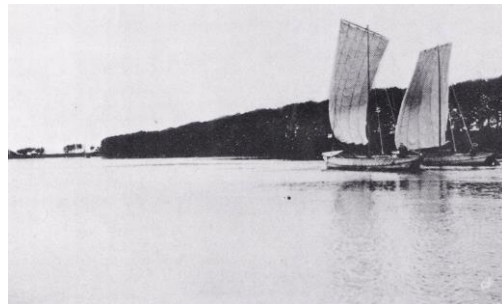
木曾三川の川運について、江戸時代のことは尾野山随風 46「木曾三川と桑名湊」で、明治4（1871）年の岐阜県（当時の岐阜県は美濃国のみで飛騨国は高山県だった）の報告書（「辛未念租税取調方心得」）を紹介した。その報告書には「勢州桑名湊の他に津出便利之湊無御座候」とあって、その状況は明治前半期ころまで続いた。江戸時代の藩領に縛られた通商の範囲も次第に拡大した。

明治14年調べの「渡船場乗客船荷船取調書」（岐阜県立図書館所蔵）によると、荷船の到着地は名古屋・桑名・四日市が多い。また伊勢湾岸の若松・津・松阪・熱田・鳴海・横須賀・常滑などに及んでいる。岐阜町（現岐阜市）下新町には内国通運会社があり、桑名四日市名古屋などに船が往復しているが、平水より4尺以上になれば船は出ず、夜間も出なかった。

明治20年度の『岐阜県統計書』では、著名な河岸（湊）として、岐阜・笠松・大垣・上有知が挙げられているが、移出品としては、生糸・太物・呉服など繊維関係が多い。この4湊が都市化しているからであろう。米・麦や材木などの農林関係は産地の近くの河岸から出荷されたので、統計書には反映されていないようだ。



桑名・住吉神社前の風景



千本松付近を行く帆掛船

明治20年度の『三重県統計書』の桑名湊の移出入額は下表の通りだが、移出入額ともに米が断然多い。移出入先は明記されていないが、殆どが木曾三川上流の美濃方面から来て、東京方面へ送られたと思われる。しかし四日市と京浜間に大型汽船が運航されているので、桑名からは四日市まで運ばれたようだ。種油は北勢地方の特産品である。食塩は瀬戸内海地方から運ばれてきて、桑名から木曾三川の上流地区へ送られた。材木は木曾材が中心で、桑名で中継されて、各地へ送られた。明治後半期になると、統計書にも移出入先が明記されているので、またの機会に書く。

明治20年度の桑名湊 移出入額			
移入品名	単位千円	移出品名	単位千円
米	1,947	米	2,125
材木	123	種油	40
麦	66	食塩	36
呉服太物	60	材木	25
大豆	47	油粕	15
青物海藻	41		-
食塩	35		-
干鰯	31		-
紙類	30		-
小豆	26		-

(金額1千円以上のもの)



桑名湊には明治12年に洋館の警察署が再建された